



無料版

1月号



毎月1日発行

第45号 定価 540 円 (本体 500 円・送料別途)
本社 東京都新宿区高田馬場 3-23-3 ORビル 6 階
☎ 03(3371)9340 FAX 03(3371)9596 www.u-car.co.jp
本紙の無断転載・複製を禁じます

購読・広告のお申し込みは

☎ 03-3371-9340

発行所 (株) ユーストカー (株) ユーストカードットコム

2017年 中古車相場暴落!?



プロの商談の一部を公開

名シーン編

《3・4面》最強買取店舗
石沢マネージャーのお手本レポート②

《4面》

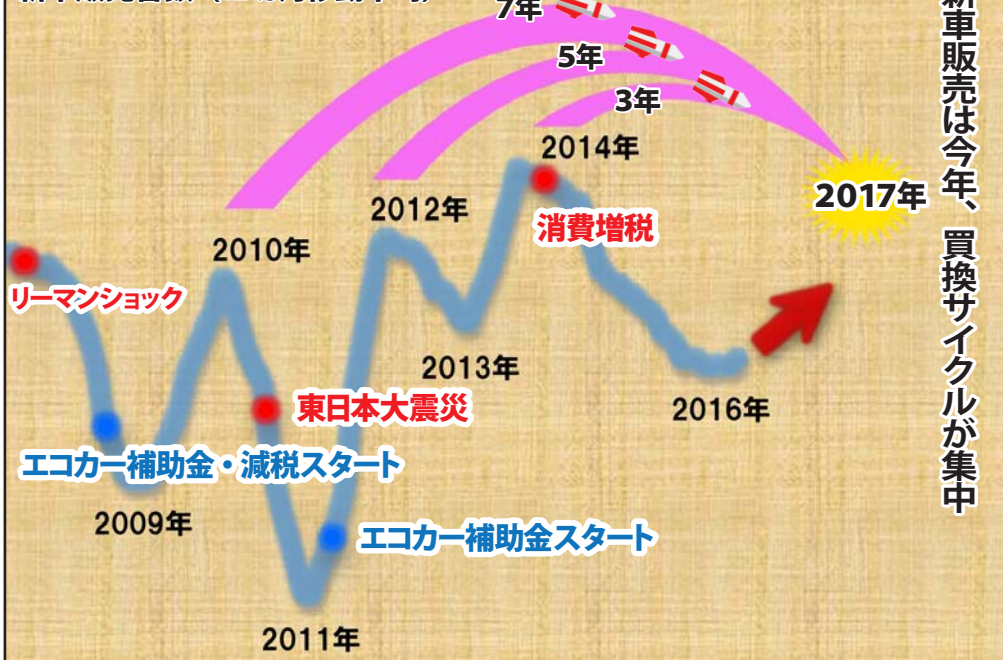
ミヤンマー輸入規制の緊急速報!!

新春

オークション誕生50年史

《12・13面》

新車販売台数 (12 ヶ月移動平均)



新車販売は今年、買換サイクルが集中

2017年の自動車流通業界は今までは一変し、小売業界は明るく、買取業界には厳しい年となりそうだ。
新車販売台数は3年前、5年前、7年前にそれぞれの山があった。その3つの山からの新車の

車検サイクルである3年落ち、5年落ち、7年落ちが今年に当たるのだ。
有料版では、モザイクの部分全てをお読み頂く事ができます。
お申し込みは19面、または電話03(3371)9340まで

話をAA相場に戻すと、2014年から現在までの2年余り、中古車は高値相場張り付きの状態にあるといえたが、今

年は大きく様変わりすることが予想される。性をはらんでいるのである。

これだけ揃った中古車相場が安くなる理由

新車販売が好調だった3つの山の正体とは

それでは新車販売の3つの山の正体を説明しよう。次ページの図2を見ると、3つの山のうち、最初の2つの山の手前には大きな谷があることが分かるだろう。この2つの谷が09年のリーマンショックと11年の東日本大震災なのである。つまり09年と11年は新車が売れなかったということだ。この2つの谷は、新車を買った結果であることは理解できるだろう。本紙読者の皆様にはお分かりだと思いが、買い控えた翌年には反動需要が生まれる。さらに、この谷の状態の新車需要を促すために、09年4月にはエコカー減税と補助金、11年12月には2回目のエコカー補助金がそれぞれ実施されており、この反動需要と補助金・減税による需要が、10年、12年の2

《2面へつづく》

オークネオステーションハイパー AUCNeo Station HYPER

新セリ入会キャンペーン

3会場同時参加可能

圧倒的な検索利便性



売 買 オークネット TVAA 共有在庫市場&一撃市場
レギュラーコース 通常月額 29,800円

全国75オークション会場にリアルタイム応札出来る
ライブオークション 通常月額 5,000円

全国120オークション会場に事前入札できる
アイオーク

入会后1年間限定
34,800円相当
キャンペーン
特別月額費用

14,900円/月 57%OFF

2年目以降は、月額34,800円でご利用いただけます。
①キャンペーン期間中(2017年6月30日迄)に入会申込みをして頂く。②レギュラーコースの基本サービスに加え、ライブオークション、アイオークも含め14,900円/月で1年間に利用頂けます。2年目以降はレギュラーコースの通常月額(29,800円/月)とライブオークションの通常月額(5,000円/月)の34,800円/月となります。③キャンペーン特別月額費用(14,900円/月)の場合、一部の取引手数料が通常のレギュラーコースより2,000円増しとなります。また、システムサポート料など別途発生する費用があります。④表記金額は、全て消費税別となります。⑤記載内容が予告なく変更・適用外となる場合がございます。ご了承下さい。

オークネットなら年間500万台、120会場から仕入れが出来る

本件についてのお問合せ先 ▶ 株式会社 オークネット・セールス アンド サポート ☎ 03-5548-6151

URL: www.aucnet.co.jp
オークネット 検索

AUCNET

図1 新車販売台数、AA出品台数、中古車輸出台数の推移



《1面からのつづき》
つの山の正体なのだ。
もう一つある3つめの山はどうして出来たのか。ご存じのように14年の消費税増税前の駆け込み需要によるものだ。このように、3つの山はリーマンショック、東日本大震災の反動需要と補助金・減税による需要、そして消費税増税の駆け込み

み需要によって作られたものである。
ここで新車販売台数と中古車相場の関係性を説明したい。図2を見る

新車販売台数と中古車相場は、このように、今年も夏頃から明い兆しが見えてきたのである。昨年11月には、新車販売は買換の早期刈り取りで、普通乗用車が前年比15.4%増、小型乗用車でも17.0%増と7カ月ぶりにプラスに転じたのだ。参考までにさらに10年遡り、図1で90年代以降の新車市場を振り返ってみよう。読者の皆様も記憶を辿ってほしい。ちょうど20年前の97年3月には、消費税が3%から5%に増税された。増税直前の3月は、新車販売台数が月106万台に上り、月間販売台数として

新車販売台数とは関係があることが十分理解できるだろう。このように、今年も夏頃から明い兆しが見えてきたのである。昨年11月には、新車販売は買換の早期刈り取りで、普通乗用車が前年比15.4%増、小型乗用車でも17.0%増と7カ月ぶりにプラスに転じたのだ。参考までにさらに10年遡り、図1で90年代以降の新車市場を振り返ってみよう。読者の皆様も記憶を辿ってほしい。ちょうど20年前の97年3月には、消費税が3%から5%に増税された。増税直前の3月は、新車販売台数が月106万台に上り、月間販売台数として

読者の皆様も経験したように、昨年は買取店にとっては高値で利益を確保できた。しかし新車ディーラーは新車販売に苦しみ、AA会場ではタマ集めに苦しみ、中古車小売店は仕入れに苦しんだ年だった。

今年、A A落札平均価格の推移は、過去最高を記録した。ところが97年の消費税増税で新車市場は大幅に縮小。さらにバブルの崩壊、リーマンショック、東日本大震災と続き、97年以降09年まで12年にわたる、新車市場は長期低落傾向が続いた。リーマンショック後は減税等の政策による自動車市場でこ入れで需要は一時的に盛り返したが、再び14年の消費税8%への増税で新車販売は冷え込んだ。これが過去20年間の新車市場の推移だ。

過去最高を記録した。ところが97年の消費税増税で新車市場は大幅に縮小。さらにバブルの崩壊、リーマンショック、東日本大震災と続き、97年以降09年まで12年にわたる、新車市場は長期低落傾向が続いた。リーマンショック後は減税等の政策による自動車市場でこ入れで需要は一時的に盛り返したが、再び14年の消費税8%への増税で新車販売は冷え込んだ。これが過去20年間の新車市場の推移だ。



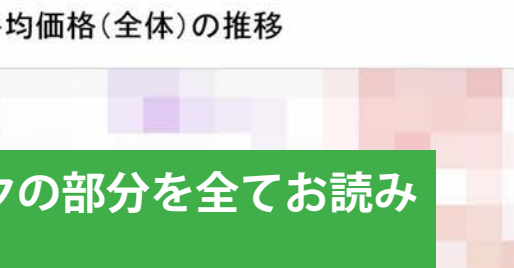
12カ月の平均価格の移動平均線、季節要因を排除した平均値である。同図で4月(赤丸)と5月(緑丸)の位置関係に注目して欲しい。格の推移を見てみよう。図3のように現状の中古車相場は、

12カ月の平均価格の移動平均線、季節要因を排除した平均値である。同図で4月(赤丸)と5月(緑丸)の位置関係に注目して欲しい。格の推移を見てみよう。図3のように現状の中古車相場は、



ここでは今年の相場推移をどうみるか。昨年後半の平均価格が12カ月移動平均

ここでは今年の相場推移をどうみるか。昨年後半の平均価格が12カ月移動平均



まず、車検の前年に見られる特徴が16年に顕著に現れている。

まず、車検の前年に見られる特徴が16年に顕著に現れている。





ユーザー車両も多数出品!

インターネットAA

CarPrice カープライス

誕生1周年記念キャンペーン実施中!

初めての落札で*1 1万円相当のギフトカードプレゼント! *2

*1 弊社との初めてのお取引に限ります。 *2 キャンペーン詳細はお電話にてご確認ください。

入会金・月会費 **無料!**

入札料・落札料 **無料!**

出品料・成約料 各¥5000

資料請求はこちら ▶ Tel 03-4588-9503

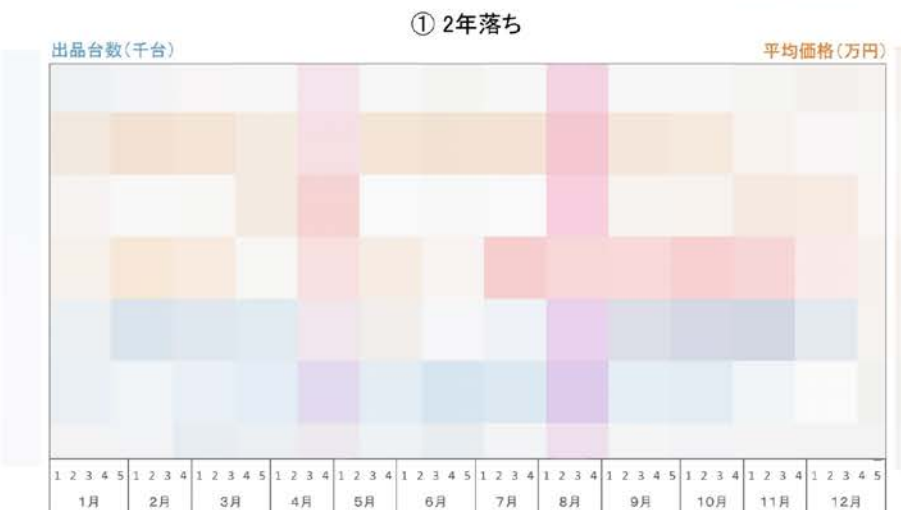
カープライス 検索

HP右上の「中古車販売店様はこちら」をクリック



これに対して、車検年の特徴は

図4 2015 年と 2016 年における年落ち別出品台数・平均価格比較 (国産乗用車)



以上のように、昨春秋以降、はつきりと回復傾向がみえてきている新車市場を背景に、

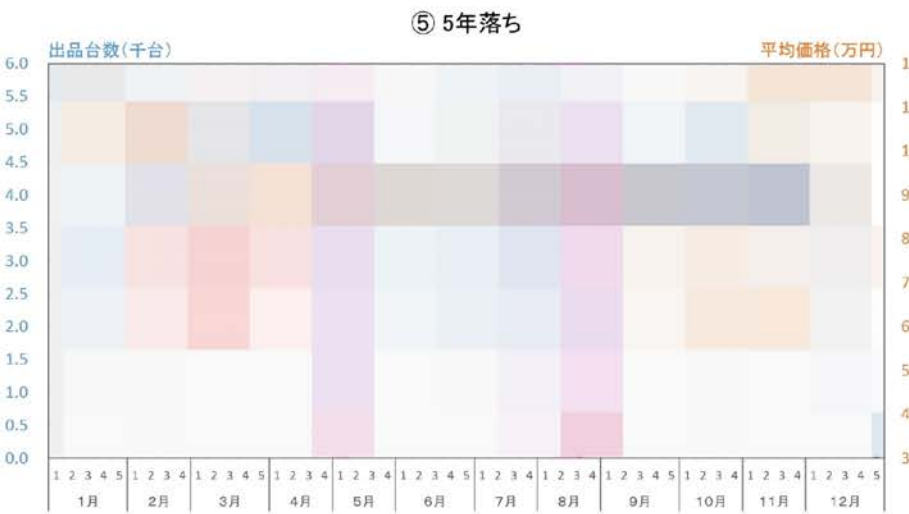
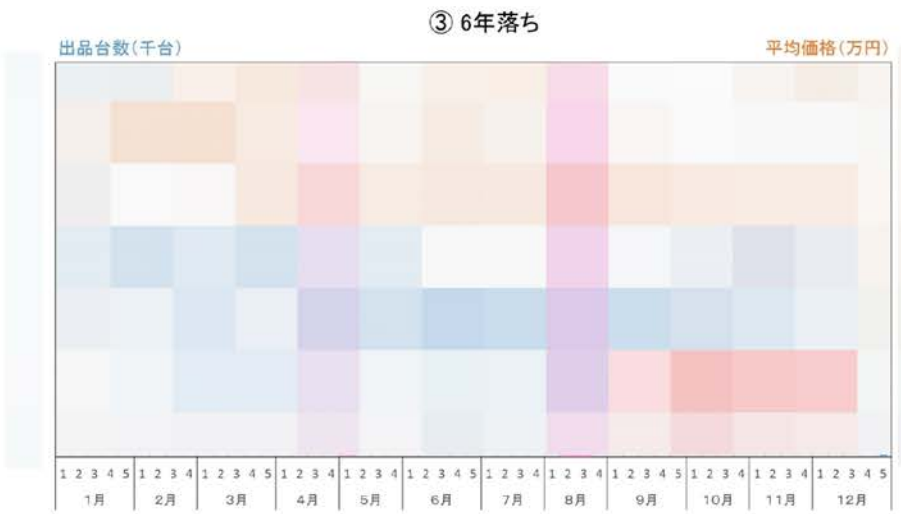
買取店においては今までと同じように、オークションにおいて満足する価格が入らず流す、というよりも見切り、損切りする方が今年の相場においては正しい判断なのかもしれない。

今回の巻頭特集では、様変わりする今年の新车・中古車動向を見通しました。1年の計の参考になれば幸いです。本紙では、今年も商売の役に立つ情報を提供していきますので、ご期待下さい。

逆の見方をすると、中古車買取では、



有料版では、モザイクの部分を全てお読み頂く事ができます。
お申し込みは19面、または
電話03 (3371) 9340まで



USS東京

いよいよ12レーン始動

—— 利便性向上へ2月2日からスタート ——